町史だより

～ウガンはお済みでしょうか？～

九月のはじめごろ、お話をうかがうため、あるおばあさんへ電話をすると「私は（旧暦）八月は忙しいよ」との返事。「あ、ゲートボールですかー」とたずねると、「違うよー、日曜日はヤシチヌウガン（屋敷の拝み）でしょ、また（旧暦八月）十日はカシチー（赤飯）、シバサシでしょ、そして十五夜、彼岸さー。はあ、どんなに忙しいから」

また、おじいさんとたまたま電話で話していたら、「そういえば八月は十五夜まで毎日行事があるから遊びに来たらいいさー」

そうでした。旧暦のカレンダーに目をやると、八月はいろんな行事が記されていました。

ここでちょっと大正時代（注①）の西原では、どんな八月行事があったのかみてみると、

八月彼岸祭「ンチャビ」。秋分より一週間以内。

八月八日　八十八才に当る人は米の祝いがある。

八月十日　折目。赤飯を神前及び霊前に供える。家の軒、屋敷に「シバ」をさす。

八月十一日より十五日まで　妖怪月。所々に「ヤックゥ」を作り、「タマガヒ」を見る習慣がある。十日から十五日までは爆竹を鳴らす。

八月十五日　十五夜。「フチャギ」（小豆餅）を霊前と神前に供える。

これは大正時代の行事で、時代の変化や各集落ごとに違いはありますが、一般的な行事として、彼岸や八十八才の祝い（トーカチ）はみなさんご存知だと思います。

十日の折目（＝カシチー）は、赤飯をつくり、火神や仏壇に供えますが、西原では、折目の供物やムーチー（鬼餅）は、有名なウチャタイマグラーの伝説にもとづいて、ウチャタイ道より下地区は一日早く行われます。それで、カシチー行事も、呉屋より下地区では九日に行われ、翁長より上の地区は、十日に供えられます。

また、八月のこの時期は、ヨーカビー（妖怪日）といって、怪しいタマガイ（火の玉）が出現するとされ、その魔除けのために、桑の葉とススキを束ねたシバをつくって屋敷の隅々や、門・井戸などに挿しておきます。このとき、屋敷の拝みも同時に行われます。

妖怪日の期間中は、タマガイが上がるのを、集落はずれの高台から見物したり、魔除けのため爆竹が鳴らされたりしました。

この火の玉は、病弱な者の家から上がると、その者が近日中に亡くなるといわれたり、ウガンブスク（御願不足）の家からも、不幸の前兆として火の玉があがるといわれています。

そして八月のメインイベントともいうべき十五夜には、各集落でムラ芝居や獅子舞が盛大に催されました。この催しのために、ムラ人はウドゥイニンジュ（踊り人衆）や、シーシニンジュ（獅子舞人衆）といった組に分かれ、何日も前から稽古に励んだといいます。

はー、ここに並べるだけで一杯いっぱいになっちゃいますが、詳細についてはみなさんの各家庭、または集落でそれぞれのやり方があると思いますので、チェックしてみてはいかがでしょう。

そうそう、最近ついてないな、とか怪しい火の玉を見た、なんていう方、もしかしてウガンブスクなのでは？

シバサシ・翁長の民家にて